

記者会見

労働者を無視した企業買収に抗議



事前協議のない買収提起に強く反対するとマキノ労組加藤書記長（右4人目）

JAMはマキノ労働組合（JAM神奈川・県央地協）と共同で「労働者を無視した企業買収に抗議する」記者会見を3月26日東京・友愛会館で開き、ニデック株からの同意なき敵対的TOBに対し強く反対すると、マスコミ・メディアを通じて社会へ広く訴えた。

㈱牧野フライス製作所は、2024年12月27日事前協議のない買収提案（株式公開買い付け）を受けた。年明けになり組合員から不安の声があがった。

労組アンケートではニデック社の意向表明書に記載されているシナジー効果についても会社の成



現場の状況を説明するマキノ労組
小島副執行委員長(左)、加藤書記長(右)

長につながる提案だとは従業員のお多くは感じていない。

労組の意見書について賛同するかどうかを取りまとめた結果、『賛同』が92.1%、『反対』が2.9%となり、企業買収に対して強く反対する意見書を2025年1月23日会社へ提出した。

3月21日にはJAM安河内会長と共に経済産業省を訪れ、企業価値の向上を目指す『企業買収における行動指針』の原則にも反している。企業価値向上のために重要なファクターでステークホルダーでもある従業員に対する配慮が欠けていると陳情し、労働者（労働組合）の意見聴取を義務付け、公表するよう行動指針の強化を要請した、などマキノ労組加藤書記長をはじめとするマキノ労働組合執行部は、記者らに説明した。

多くの質疑応答のあと、「労働組合が企業の重要なステークホルダーである労働者の幸せを追求していくのは、これまでもこれからも変わらない。誰かの犠牲の上に成り立つ成長が社会から認められるということがあってはならない」と会見を結んだ。